

2019.7.28 年間第17主日

求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

ルカによる福音書 11:1-13

イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。

『父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

わたしたちの罪を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。

わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」

また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』すると、その人は家の中から答えるにちがいない。『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える

父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

説教

主の祈りは5つの祈りの組み合わせです。

1. 父よ、御名が崇（あが）められますように。
2. 御国が来ますように。
3. わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。
4. わたしたちの罪を赦してください。
5. わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

1と2が神さまについて、3, 4, 5がわたしたち人間について、という二部構成です。

年を重ねていくとモノ忘れがひどくなっていきます。イエスさまが教えてくださった主の祈りもひょっとしたら忘れて祈れなくなってしまうかもしれない、ときよの福音を読んでいて思いました。となると、二部構成だの5つの要素だの理屈はどうでもいいことになってくるぞ、と気づきました。理屈をこねる「もと」を忘れてしまっていれば元も子もありません。

きよの福音の後半は夜中に隣人の家にパンを借りに行って断られる、それでもしつこく頼めばなんとかなる、ちょっと意味不明のたとえ話です。

この夜中のパンのたとえをとおして、主の祈りの意味をイエスさまはわたしたちに教えてくださったのではないかと思います。

理屈や意味は忘れてしまっても、十分に理解していなくても構わない。祈りの文言を忘れてしまってもしかたがない。たとえモゴモゴ言っているようにしか人には聞こえなくてもいい、ちゃんと聞き入れてくださる方はおられる。必死の思いは聞き入れられる。

だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。ルカ1

これがイエスさまの教えてくださった祈りの神髄であり、わたしたちへの救いのみことばです。
